

第1学年 国語科「おかゆの おなべ」

◆本時の指導



(1)本時の目標

「おかゆの おなべ」を読み、感想を友達と共有することができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 「おかゆの おなべ」を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お話の「おもしろかったところ」や「好きなところ」を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おもしろかったところ」や「好きなところ」など、音読するときの観点を示す。
	<p>「おかゆの おなべ」の「おはなしカード」をかこう。</p>	
展開	<p>2 「おはなしカード」に「おかゆの おなべ」の登場人物と感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> おはなしカードの書き方を例示し、確認する。 主な登場人物を書く。 「おかゆの おなべ」の感想を書く。 <p>3 「おはなしカード」に書いた感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各号車の右側の人だけが動く。 隣の席の友達と感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時での「おはなしカード」作りに繋げるために、主な登場人物だけを書くように指導する。 感想の書き方を例示する。 ◇「おかゆの おなべ」を読み、思ったことをカードに書いている。〔記述〕 ・同じ作品を読んでも、人によって感じ方や着眼点が変わることに気付かせるようにする。 ◇友達に感想を伝えたり、友達の感想を聞いたりしている。〔観察〕
まとめ	<p>4 友達の感想を聞き、思ったことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の感想を聞いて思ったことや気が付いたこと、自分と違ったところ等を話す。 次時の学習を確認し、見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と同じところと違うところを選択させ、どういうところが違ったか（同じだったか）を話させる。

◆ 成果と課題

【成果】

めあてを事前に確認し、音読する観点を示した。また、教員や児童が読む、宿題で読むなど、読む時間を十分に確保したことで、話の内容がしっかりと理解できた。そうすることで、おもしろかったところ、楽しかったところなど、感想をもつことができた。

【課題】

友達の感想を伝え合う場面では、人によって様々な受け取り方があること、同じ感想でも表現の仕方が異なることなどを学ぶことで、友達の意見を聞く態度がよりよくなるのではないかと感じた。そのため、感想の伝え方の工夫に課題がある。

第1学年 国語科「おかゆのおなべ」

◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1) 本時の目標

「おかゆのおなべ」を読み、物語に出てくる登場人物や内容の大体をとらえて読むことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「おかゆのおなべ」の読み聞かせを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">「おかゆのおなべ」は、どんなおはなしかたしかめよう。</div>	・ 教師の範読を聞き、物語の大体をとらえる。
展開	2 内容の大体を確かめる。 ・ ワークシートを使って、内容を整理する。 3 読後の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物と、その人物がしたことが書いてあるところを探し、ワークシートに記入させる。 ・ 起きた事件とその解決の仕方の二つに着目させ、内容を整理しやすくする。 ・ 「おもしろかったところ」や「好きなところ」など、感想の観点を示す。 ・ 感想を書くのが難しい児童には、感想が書けている児童に発表させ、どのようなことを書けばいいのかを示す。 <p>★「おかゆのおなべ」を読んで、自分なりの感想をもつことができる。</p>  <p>◇「おかゆのおなべ」を読んで、自分なりの感想を持ち、文章に書くことができる。</p>
まとめ	4 本時の振り返りをする。	・ 書いた感想について、次時で友達と感想を伝え合うことを確認する。

◆ 成果と課題

【成果】

範読は前時で行っていたので、学級全員で音読をした。全員で声を出すことで、学習に向かう姿勢を作ることができた。感想を書く前に、何人かの児童に感想を聞いて、感想をもつのが難しい児童にも友達の意見から、自分の思いをもてるようにしたのが効果的だった。お話の中の不思議な部分、疑問点を上げる児童が多く、次時以降につながる感想を書いている児童も多かった。

【課題】

読後の感想を書く時間は、次時に計画を立てればよかった。内容理解の時間を十分に時間を確保することで、友達の気持ちを聞く、伝える時間につながるのではないかと考える。



第1学年 国語科「ひらがな「お」/なんていおうかな」

◆本時の指導



(1)本時の目標

- 鉛筆の持ち方、姿勢、4つの部屋を意識して書く力を育てる。
- 進んで経験したことを思い出したり、考えたことを伝えたりすることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 本時のひらがなを確認する。 「お」のかきかたをれんしゅうしよう。/えをみてそうぞうしたことをはなしてみよう。	
展開	2 書き方、書き順を確認する。 3 「お」を使った言葉を出し合う。 4 プリントに「お」を書き、練習する。 5 朝、教室に入ってきたときの絵を見てどんなことを言っているのか考える。 6 教科書 p.18 の絵についてどんな場面か何を話しているのか想像する。	・4つの部屋を意識させる。 ・鉛筆の持ち方、書く姿勢を確認し、意識させる。 ・机間指導の際、良い字には○、直しが必要な時には赤ペンを入れる。 ★「どんな場面で」「どんな人がいて」「どんな話をしているのか」の順序で発言させる。 
まとめ	7 本時の学習を振り返る。	◇経験したことを思い出したり、考えたことを伝えたりしようとしている。

◆ 成果と課題

【成果】

朝の様子を自由に話す時間を設け、イメージを膨らます活動を通して、教科書の挿絵と自分の日常の様子を結びつけて考えることができた。また、「どんな場面で」「どんな人がいて」「どんな話をしているのか」を友達に伝えることができた。

【課題】

友達の話を聞く活動を通して、友達の考えに興味をもったり、より理解できたりできるように、「〇〇さんは、△△というように考えたよ。みなさんはどう思う？」などと、担任が話をつなげていく問いかけをたくさん入れていく必要がある。

第1学年 算数科「どんなけいさんになるのかな」

◆本時の指導（第1時／全3時間）



(2) 本時の目標

加法や減法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 教科書の絵を見て、どんな場面か話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">えをみて、けいさんのしかたをかんがえよう。</div>	・絵を見て、問題も読む。
展開	2 問題①を読み、不足している言葉や課題を考え、問題文を完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">①おすのらいおんとめすのらいおんは、みんなでなんとういますか。</div> 3 問題文を読み、どんな式を作ればよいか考える。 4 立式の根拠を発表し、その根拠を説明する。 5 問題②も同じように取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">②おやのしまうまとこどものしまうまでは、どちらがなんとうおおいでしょう。</div>	・教科書に書いてある文章だけでは、問題を解けないことに気づかせ、不足している言葉や数を絵から見つけるように促す。 ★問題を解くための見通しをもつことができる。  ・不足している言葉や数を補い、加法なのか減法なのかを考えさせる。問題文や絵から場面を読み取って式をたてる。 ・立式の根拠となる言葉に注目させる。 ★立式の根拠を発表することができる。  ◇既習を活用して、どのような式で解決すればよいかを考えようとしている。（発言・ノート）
まとめ	4 加法や減法の場合についてまとめる。	・合併や増加の場面では加法を適用すること、求残や求補、求差の場面では減法を適用することを、言葉や具体的な操作と結びつけておさえる。

◆ 成果と課題

【成果】

繰り上がりと繰り下がりのある加減法の学習のまとめとして行った。そのため、計算方法の復讐と、児童が苦手とする文章問題のまとめとしても有効だった。

【課題】

不足している言葉や数を考えることが最初は難しかった。問題数を重ねていくうちに、どの数と言葉が必要なのか考えることができるようになっていった。立式については、加法と減法が交互に出てくると、立ち止まって考える必要があるため、難しい児童もみられた。既習を生かして場面絵と言葉（キーワード）から考えさせていくことが必要である。

第1学年 算数科「ひきざん」

◆本時の指導（第6時／全10時間）



(1)本時の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時の学習を振り返る ・12-3の計算の仕方を振り返る。	・算数ブロックを使って、図で表して計算する方法を思い出させる。
ひきざんのけいさんのしかたをかんがえよう。		
展開	2 P.82の練習問題に取り組む ・問9の16-7を、ブロックを使って計算する。 ・計算の仕方を考える。 ・計算の仕方を発表する。 ・問10の①～⑨の問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・問11の文章問題に取り組む。 ・答え合わせをする。	・減加法でも、減々法でも、自分が計算しやすい方法で考えてもよいことを確認する。 ★算数ブロックや図などを使って計算の方法を考え、発表する。  ・計算の手順を図で表すことが困難な児童には、算数ブロックを使って計算させる。 ◇11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解し、その計算ができる。（観察・ノート）
まとめ	3 本時の学習を振り返り、減加法、減々法の計算の仕方を確認する。	・算数カードや算数ブロック、図を使って計算の仕方を確認する。

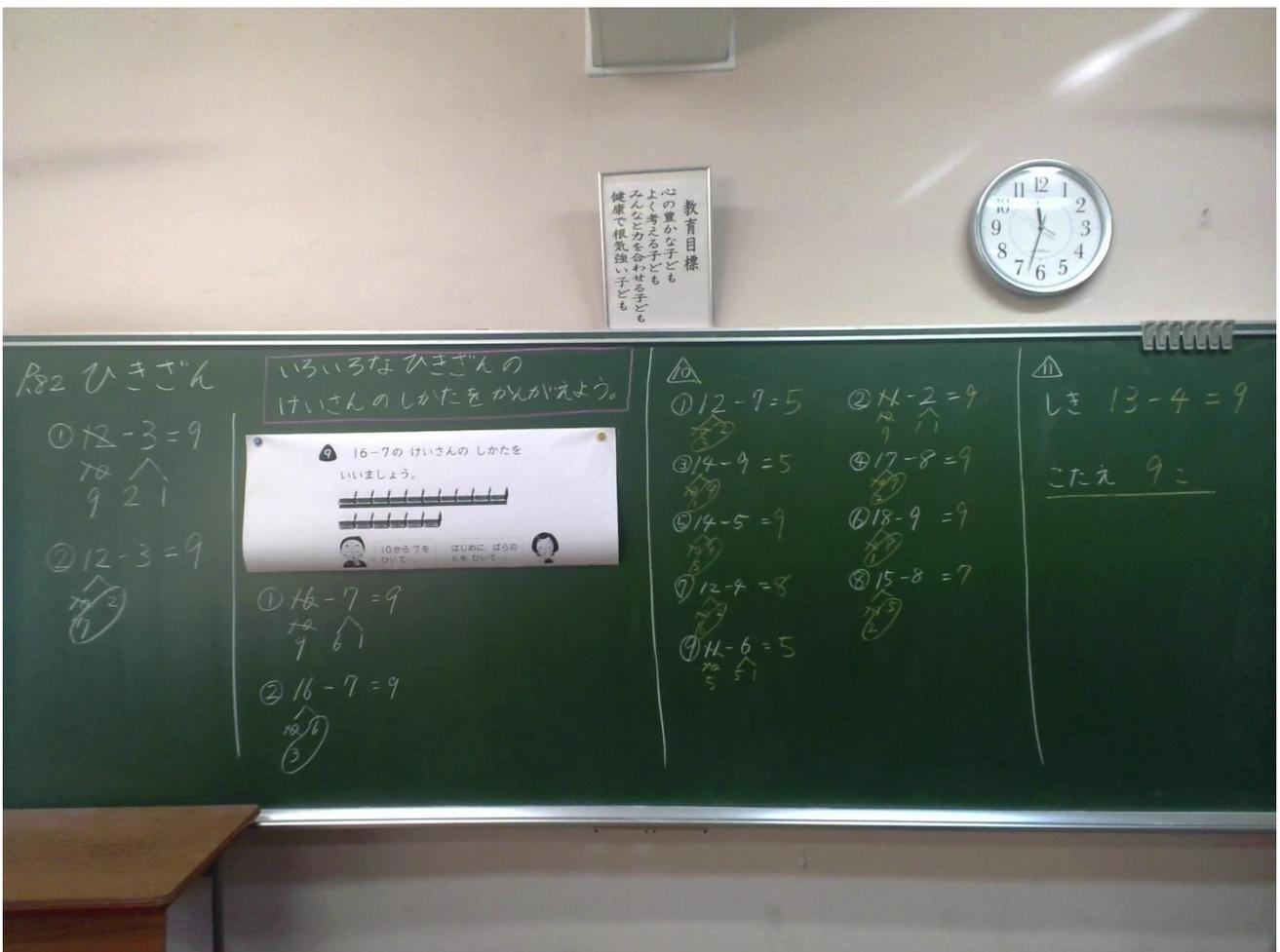
◆ 成果と課題

【成果】

ひきざんの差を出すだけではなく、計算の過程を意識させ定着を図りたかった。ひきざんには、減加法（ひきたしざん）と減々法（ひきひきざん）の2つの計算の仕方があることを導入で児童の発言から引き出すことができた。計算の手順を発表する時間を確保することで、減加法と減々法の計算の仕方を丁寧に確認することができた。

【課題】

加減法、減々法の計算の仕方が難しい児童のために、算数ブロックを使って計算の過程の理解を図った。しかし、算数ブロックを使って計算しても混乱してしまう児童も見られた。また、減加法や減々法を使う際に数字をどのように分ければよいのかを理解していない児童も見られた。10を作って計算をしやすくするというのをしっかりと確認しておく必要がある。



第1学年 生活科「かぞくにここに大きくせん」

◆本時の指導（第4時/全10時間）



(1)本時の目標

家族が喜ぶことを考え、自分の役割に気付き、自分でできそうな仕事に繰り返し取り組むことができるようにする。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 全時までの学習を振り返る。	・前回までの学習で、家族の人は、家族のためにたくさんの仕事をしていることに気付き、「家族のためにお手伝いをしたい」という思いになったことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> にここに大きくせんーかぞくのためにできることを考えよう。 </div>
展開	2 自分でできそうなことや、やってみたい家の仕事を考える。 3 家族のために行いたいことを決める。（ワークシートに記入する）	★前時までの学習（発表や交流活動）をもとに考えさせる。また、単発で終わるお手伝いではなく、継続的に行うことを伝える。その上で自分でもできそうなことを考えさせる。  ・何を行うか迷っている児童の参考になるように、複数名に考えを発表させる。 ◇自分でできることや自分の役割に気づいている。（発言分析、行動観察） ・家族の一員として進んで仕事に取り組もうとする。
まとめ	4 自分のめあてを決め、発表する。	・決めたことを伝え合うことで、頑張ろうとする気持ちを高めていく。

◆ 成果と課題

【成果】

前時までに、家族の一日や仕事について調べる活動や自分と家族の1日の過ごし方について比べる活動をしっかり行ったことで、児童の「家族のためにお手伝いをしたい」という思いが高まった状態で本時を行うことができた。そのため、本時では、児童が意欲をもって家族のために何ができるのかを一生懸命考える姿を見ることができた。

【課題】

ワークシートの活用や振り返りの行い方に課題が残る。帰りの会などで、振り返りの時間を短時間でも設け、友達の手組みを知ったり、自分の手組みを紹介したりすることで、より意欲を高めていく必要がある。

第1学年 道徳科「ありがとうが いっぱい」

◆本時の指導



(1)本時の目標

自分がどんな人にお世話になっているかについて考え、感謝の気持ちを言葉などで伝えようとする実践的意欲と態度を育てる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 どんなときに「ありがとう」というかを考える。	・周りの人に感謝する場面を出し合い、様々な人が支えてくれていることに改めて気づかせる。
	どんなとき、どんなひとにお世話になっているかをかんがえよう。	
展開	2 教材「ありがとうが いっぱい」を読んで、話し合う。 ○「わたし」には、ほかにどんなありがとうがあるとおもいますか。 ・教材に提示されているものの他に、どんなありがとうがあるかを考え、発表する。 3 自分の生活を振り返り、だれにどんなありがとうを伝えたいかを考え、発表する。 ◎みなさんは、だれにどんなありがとうをいいたいですか。 ・ワークシートにありがとうの気持ちを書く。 ○ありがとうのきもちをはっぴょうしましょう。 ・誰に、どんなありがとうを伝えたいかを発表する。	・調理員、警察官、家族のイラストを黒板に貼り、学校、地域、家庭の三つに分けて考えさせる。 ・書き方がわからない等困っている児童がいる場合には、画面に例文を提示する。 ★自分の生活を振り返り、感謝の気持ちを発表する。また、友達の発表を聞いて他にもどんな人にお世話になっているかを考える。 
まとめ	4 学習を振り返る。	◇自分の生活を振り返り、感謝の気持ちを伝える行為をすすんで行おうとしている。

◆ 成果と課題

【成果】

児童は積極的に発言し、ワークシートもよく書けていた。「ありがとう」の気持ちを発表する際には、誰に対してどのようなことに感謝しているのかをしっかりと話すことができていた。

【課題】

1つ目の発問の際に、「他にどんなありがとうがあるかな。」と学校・家族・町のカテゴリ分けをしていなかった為、何を書けば良いのかわからないという児童が出てしまった。今後は、詳しく具体的な発問を行っていく必要がある。

第1学年 道徳科「二わのことり」

◆本時の指導



(1)本時の目標

やまがらの誕生日会に行くか、うぐいすの家での音楽会の練習に行くか迷うみそさざいの姿を通して、友達のためにできることについて考えさせ、友達と仲良くし、助け合おうとする実践意欲と態度を育てる。【B(9) 友情、信頼】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 自分の普通の生活を思い出し、友達のよさに目を向ける。 ・友達がいてよかったと思うのは、どんなときですか。	・普段接している友達について自分の考えを振り返り、めあてや教材につながるようにする。
	ともだちのためにできることを、かんがえましょう。	
展開	2 「二わのことり」を読んで話し合う。 ・みそさざいは、どうしてうぐいすの家に行くことにしたのでしょうか。 ・やまがらの家に飛んで行ったとき、みそさざいは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・みそさざいがやまがらの家に着いた時、二羽はどんな話をしたと思いますか。二羽の小鳥になって、演じてみましょう。 ・二羽は、どんな気持ちになったでしょう。	・みそさざいが「どうしようかな」と迷ったということ、また、すぐに飛んで行ったのではなく、「とうとう」飛んでいったことを確認し、みそさざいの葛藤する気持ちを児童にも考えさせる。 ・役割演技をして、友達を大切にしようとする発言や、それによって生まれる嬉しさについての発言を引き出す。役割演技をしたり、見たりした感想から、友達の気持ちを考えて行動した結果、自分も相手もうれしい気持ちになったことに気付けるようにする。 ★自分の考えを相手(クラスの友達)に伝える。役割演技の中で、友達の考えに関心を持ち、感想を伝える。
まとめ	3 本時の振り返りをする。 ・自分だったら、どのようにして友達を大切にしますか。	・みそさざいの行動を受け、どのようにしたら友達に喜ばれたり、感謝されたりするかを考える。 ◇友達のためにできることについて考え、友達と仲良くし、助け合おうとする気持ちを持つことができている。 ★周りの友達に思いやりを持ち、他者に働きかける。

◆ 成果と課題

【成果】

役割演技で、みそさざいとやまがらの気持ちになりきり、身近にいる友達と一緒に、仲良く活動することの良さや楽しさ、助け合うことの大切さを実感することができた。また、学習後は、友達と一緒に勉強したり仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験から、友達の良さをより強く感じられるようになるきっかけとなった。

【課題】

道徳の授業をきっかけとして、自分のこれからの行動を変えたり、今までのことに思いを馳せて自分のことを振り返ることができたり、というところまで児童に考えさせることは難しい。役割演技で登場人物の気持ちになって考えることや学習のまとめをしっかりと、自分のこととしてとらえられるよう意識させていくことが必要である。

第1学年 道徳科「なかよくね」

◆本時の指導



(1)本時の目標

休み時間や給食の時間など、児童の学校内での集団生活を描いた絵を通して、友達と仲良くすることのよさや助け合うことの大切さについて考えさせ、友達といっしょに勉強したり、遊んだり、心配したりするなど、仲良くしようとする実践意欲と態度を育てる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 学校で、どのようにしたら友達ができたかを発表する。	・友達を作るために、自分がしてきたことを思い出させ、学びの意識付けを図る。 ともだちとなかよくしたり、たすけあったりすると、どんないいことがあるのかな。
展開	2 「なかよくね」を見て、話し合う。 ・この絵は、何の時間でしょう。友達同士で、どんな声を掛け合っているのでしょうか。 ・友達と仲良くなれる魔法の言葉を考えましょう。 ・声を掛けられた友達は、どんな気持ちになるでしょう。	・休み時間の絵・給食の時間の絵を提示し、どんな言葉をかけているのかを考えさせて発表させる。 ★友達と仲良くなるのに、どのような行動をとったり、どのような気持ちでいたりすればよいのかを考えられる。 
まとめ	3 自分の経験を出し合う。 ・友達がいてくれて良かったなと思ったことはありますか。	・現在の学校生活や小学校入学前のことを振り返るよう促す。 ◇友達と仲良くすることのよさや助け合うことの大切さについて気づき、友達と仲良くしようとすることができたか。

第1学年 学級活動（3）

「みんなのためになる当番のしごとを考えよう」

◆本時の指導



(1)本時の目標

当番活動について知り、みんなのためになる当番の仕事を考える。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 当番について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> みんなのためになる当番の仕事を考えよう。 </div>	・給食当番を例に挙げ、当番について理解できるようにする。
展開	2 みんなのためになる仕事を考える。 3 当番を決める。	・クラスで見られた当番活動につながる行動や、他の学年で行われている当番活動を紹介し、どんなことができるのか、どんなことをしたらみんなのためになるのかを考えられるようにする。 ◇当番活動について知り、みんなのためになる当番活動について考えている。（発言） ★【人間関係形成・社会形成能力】 学級における当番の意義を考えることを通して、学級の一員として進んで仕事に取り組もうとする。
まとめ	4 自分のめあてを決め、発表する。	・決めたことを伝え合うことで、互いに頑張ろうとする気持ちを高めていく。

◆ 成果と課題

【成果】

すでに活動していた給食当番を例に挙げたり、クラスで見られた当番活動につながる行動を紹介したりしたことが、児童がイメージをもって考えることにつながった。また、それが児童の意欲を高めることにつながった。この意欲を継続して行けるように、適宜振り返りの時間を設けていく。

【課題】

全員が納得して「決める」ことができると、より当番活動に進んで取り組めるようになると思う。そのためにも、「決める」時間をしっかりと確保する必要があった。